話題がいっぱい！なかゆくい

1/28(木) 給食を琉球漆器でいただきま～す

全国学校給食週間にちなみ、当山小学校4年3組と4組の児童に琉球漆器に配膳された給食が振る舞われました。始めに児童たちは琉球漆器について動画を見ながら技法の種類を学び、琉球料理と琉球漆器がどのような場面で昔から使用されていたのかをそれぞれで話し合いました。

鮮やかな朱色と漆黒の貴重な漆器を使った給食に児童たちは「いつもより美味しかった」、「偉い人になった気分」、「食べた後に器をティッシュで拭いた。いつもと違って（器の扱いに）緊張した」と興奮した様子で美味しそうに食べました。

1/25(月) 地域で見守る安心のまちづくり

市内郵便局との浦添市地域見守りネットワーク事業協定締結式が市役所で行われました。この事業は、市内の各団体や企業などの見守り協力団体と市および社会福祉協議会が連携し、地域住民の見守り、安否確認、声掛け等への対応を行う事業です。

これまで浦添郵便局の集配営業部を含む11事業所が登録していますが、今回市内12か所の郵便局窓口も追加され、地域の皆さんが連絡しやすい体制となりました。浦添経塚郵便局の平良局長は「さまざまな形で誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりに貢献していきたい」とあいさつしました。

2/1(月)～28(日) 東京ヤクルトスワローズ 沖縄キャンプイン!

今年もプロ野球の春季キャンプシーズンが到来しました。しかし、沖縄県独自の緊急事態宣言の発出により、歓迎式やファンとの交流会が中止され、例年とは異なり無観客でのキャンプインとなりました。そのような状況でも選手たちは体力向上メニューのほか、投手と野手に分かれてそれぞれの技術を磨き、シーズンを戦い抜く土台をしっかりと鍛え上げました。

そのほか運動公園内では地元ファン向けにグッズショップが設けられました。無観客により見学できなかった選手たちの練習風景は、東京ヤクルトスワローズ公式SNSやうらそえナビ公式サイトから見ることができます。

2/10(水) ミュール・ドゥ・ソレイユ即完売

市の特産である桑の実と北海道厚真町産のハスカップを使ったワイン「ミュール・ドゥ・ソレイユ（太陽の桑の実）」が2月11日から100本限定で販売されました。

浦添市シルバー人材センターと沖縄高専、北海道苫小牧高専などが協力して開発し、2018年から毎年販売しており、今年も大好評で2日で完売となりました。今年は桑の実80%、ハスカップ20%にブレンド比率を変え、酸味を抑えたすっきりとした甘さに仕上げました。また、毎年変わるラベルには、浦添八景の一つが選ばれ、今年は浦添グスクが描かれました。

購入した人は「貴重なワインなので家族とのイベントがあるときに楽しみたいです」と笑顔で話しました。

2/1(月) うらちゃんmini 支援の輪が広がっています

うらちゃんminiの利便性向上のため、㈱サンエー、A&W、Sweet Lotusの支援により店舗前に乗り場の立て看板が設置されました。また、ロクト整形外科、すこやか薬局をはじめ多数の企業ではポスターの掲示や乗降説明等を行っており、支援の輪が広がっています。

サンエー浦添西海岸パルコシティの吉川朝浩ビルマネジメント担当課長は「高齢者や学生など浦添市内の車を持たない方々にも気軽に来てほしいという思いで協力しました」と公共交通の利用に期待を込めました。市ではうらちゃんminiの利用促進や支援にご協力いただける企業を募集しています。問い合わせは都市計画課☎(876)1244

1/24(日) 沖縄初の外交官 田場盛義顕彰碑建立10周年

田場盛義顕彰碑建立10周年記念式典が当山小公園で行われました。田場氏は当山生まれで沖縄初の外交官として国際的にも活躍した人物です。多くの市民が田場氏の足跡に接することができるよう、当山地域の住民が中心となって平成22年3月に当山小公園に顕彰碑が設立され、今年10周年の節目を迎えました。

松本市長は「次世代を担う子ども達だけではなく、私たち世代も田場さんの生き様から学び世界で活躍できる人生を目指したい。20年、30年と末永く当山の地から、浦添の子どもたちを鼓舞して大きな存在となってほしい」とあいさつしました。

1/23(土) 易しい言葉と優しい心で やさしい日本語を使おう!

災害情報を国内に住む外国人にも理解しやすい表現で伝えるための「やさしい日本語」を学ぶ中央公民館講座がオンラインで開講されました。

受講者たちはやさしい日本語の成り立ちや、なぜそれが必要とされるのかを学習し、実際に文章を作成しながら使い方のコツを教わりました。

参加者からは「外国人＝（イコール）英語と決めつけず、自信を持ってやさしい日本語を使いたい」、「誰もが活用できるコミュニケーション方法だと思った」、「子どもや障がい者にとっても良い表現方法だ。教育や学習の場にも取り入れてほしい」との声があり、情報発信の仕方を改めて見直す機会となりました。